

姉妹・友好都市ニュース

International Friendship Association of Ibaraki
vol.37 2001.12.10

茨木市国際親善城市協会



サウンドブリッジ(左上)、双珠の鐘(右上)、安慶・茨木友好交流センター(左下)、獅子像(右下)、本文は3ページ

目次

- USA カップ サッカー大会で熱戦 2・3
- 姉妹・友好都市と記念品を交換 3
- 楽しかったロングレイクキャンプ場 4・5
- 日本語村「森の池」キャンプだより 5
- コンコーディア大学日本語村研修生ホームステイ、内海町合併 50 周年記念、内海中サッカー部と交流試合 6
- 茨木市民親善訪中団、内海町宿泊施設利用者に補助、会員募集 7
- 心温まるふれあい交流、姉妹都市活動室、青少年活動室、寄附 8

USA
カップ

サッカー大会で熱戦



温かい歓迎に感激

南中学校 2年生 増田和也

ぼくは、アメリカも海外旅行もホームステイも初めてだったので、アメリカに行く前すごくドキドキしていました。ちゃんと英語がしゃべれるかどうか、ホストファミリーの人がどんな人なのかななどの不安がありました。でも、向こうに着いたら、みんな優しくそんな人で温かく迎えてくれました。晩ごはんの時には、ホストファミリーの同じ年の子と仲良く遊んでました。なんて言ってたのかは、あんまり分からなかったけど僕らの知ってる英語で一生懸命話しました。

次の日もその次の日も、いろんな所に連れて行ってもらい、ホストファミリーの友達とまで遊びました。そして僕はホストファミリーやその友達に日本語を教えたりもしました。最初ちょっと内気だと思っていた10才の男の子が、1番日本に興味があるみたいで、1日に20個以上の単語を覚えてくれました。

その家はお父さんと10才の男の子以外は審判の免許を持っていてジャッジをしに行った日もありました。ホストファミリーの方達本当にありがとうございました。



思い出に残る11日間

西陵中学校 2年生 長尾健太

ぼくのホームステイの家族には、コスタリカから来たサッカーチームのコーチもホームステイしていました。だから、家庭の中では、英語の他にスペイン語も聞くことができ、さらに楽しくなりました。家の周りには自然がたくさんあり、リスや野生のシカが出てきたりしました。

USA杯は日本では考えられないくらいの大規模な大会で、コートが51面もあり、ブラジル、メキシコなど世界の様々な国もこの大会に参加していました。トーナメント1回戦で敗れた時は、すごく悔しかったけれど、家族の人たちがいろいろな場所に連れて行ってくれたり経験させてくれたので、その悔しさも忘れるくらいでした。バスフィッシングやビリヤード、それに大きいショッピングセンターにも連れて行ってくれました。会話もほとんどが単語で通じたので、その家族やコスタリカの人とも様々な話ことができました。

USA杯では、海外のチームと試合をするというとても大きな経験を得られたと思います。しかし、それと同じくらいの経験をホームステイでも得ることができ、とても思い出に残る11日間でした。

平成13年7月14日午後、多くの人に見送られ、茨木市少年サッカーチームは、関西国際空港を出発しました。

約11時間後、アメリカ・シアトル空港に到着し入国手続きを済ませ、国内線で約2時間でミネアポリス国際空港に到着。ロビーで選手たちは、ホームステイ家庭と対面し、挨拶の後、緊張した面持ちでそれぞれのホームステイ家庭へ向かいました。

真夏の太陽が照りつける中、「USAカップ2001世界少年少女サッカー大会」の開会式が15日午後5時から、海外チームを含めて800チームが参加して行われました。

予選リーグは16日から18日まで行われ、アンダー14のトロフィーフライトに出場しました。

試合をした相手チームとは、体格的に不利な面がありましたが、慣れない芝生のコートにも関わらず、テクニックとチームワークでそれらの弱点を補い、よく頑張りました。

予選リーグの成績は、グループ1位の3勝0敗でプレイオフ1回戦に進出。19日の決勝プレイオフトーナメント1回戦では前半コーナーキックからのセットプレーで1点を失い、その後奮起して頑張りましたが、得点することができず0対1で敗退しました。

大会終了後の22日は、ロサンゼルスへのディズニーランドで楽しみ、24日午後、生涯忘れることのない貴重な体験を胸に帰国しました。

(随行員 大橋健太)



ベルトン市長表敬訪問



ピンバッチの交換



USA杯会場で

ミネアポリス市提携20周年

安慶市締結15周年

姉妹・友好都市と記念品を交換

ミネアポリス市には、茨木市で出土した銅鐸の鋳型をモチーフにした「双珠の鐘」を贈り、ミ市からは、ミシシッピー川に架かるストーン・アーチ・ブリッジなどを思い起こさせる「サウンドブリッジ」が寄贈されました。

「双珠の鐘」は、鐘を鳴らしながら人が通ることができ、ミシシッピー川のニコレット・アイランドの公園に設置されています。「サウンドブリッジ」は、市役所南館1階の交流コーナーに展示され、パイプオルガンの音楽が定時に流れ、市役所

を訪れた市民の皆さんが聞き入っています。

また、安慶市には、対外交流総合ビルの2階に「安慶・茨木友好交流センター」が建設され、安慶市からは、硬玉大理石製の「獅子像一対」が寄贈されました。

「獅子像」は、中国では吉祥を表わす縁起の良いものとされており、市役所南館前の中央公園の「日中友好の碑」の両側に設置され、通りかかった人が足を止めて見入っています。

(写真は表紙)

7月20日から30日まで、「茨木市キャンプ交流訪問団」(中学生24人、高校生4人)は姉妹都市・ミネアポリス市を訪れました。

ミネアポリス市に到着したその日から期待と不安のホームステイが始まり、アメリカの生活を体験しました。

ミネソタ州のロングレイクキャンプ場では、アメリカの子ども26人、フランスの子ども1人と6日間を一緒に過ごし、トランプをしたり日本語を教えるなど、思い出に残る貴重な体験になりました。

'01 Summer in Mpls

楽しかったロングレイク

キャンプ場



スベリオール湖をバックに(左端が梶谷さん)

心が通じ合った交流

梶谷 澄子

私はこのキャンプに参加する前は不安がたくさんあったけど、ホストファミリーの優しさや5泊6日のキャンプと一緒に過ごしたアメリカの友達の明るさなどで、気にしていた不安はなくなりました。言葉の面で心配することもあったけど、飛行機の中で友達になったおじいさんとの会話などで、少し自信はついたかなと思っていました。そのおじいさんと話している時に思ったのは、言葉を上手に文章にしなくてもゆっくり話せばアメリカ人は私の話を真剣に聞きとってくれて、少しずつ話が通じるということです。時には全然分かってもらえない時もあったけれど、少しでも話がはずんだらとてもうれしくなります。

キャンプでは、カヌーやアーチェリーなどを初めて体験しました。最初は全然できなかったけど、カウンセラーの人がゆっくりやり方を説明してくれたし、他にもたくさん体験することができ、とてもいい思い出になりました。

私はホームステイやキャンプでたくさんのことを学びました。そしてこのことは一生忘れられないすばらしい思い出になりました。



キャンプ場の湖の前で



トランプで楽しい時間



インディアカを楽しむキャンパー



左から2番目が濱田くん

カヌーなど貴重な体験

濱田 祥宏

ホームステイ、キャンプなど初めて体験できたことまでどれも印象に残っています。

ホストファミリーは兄弟2人の4大家族で、すぐに親しくなり、テレビゲームをしたりして楽しみました。2日目は、一家と釣りに行ったり、夕食とショッピングにモール・オブ・アメリカに行つて、とても楽しい時間を過ごすことができました。だから別れの時にはとても寂しかったです。

キャンプ場では、美味しい料理から食べられない料理までありました。1番印象に残ったのは、沼地で泳いだこと、カヌーをしたこと、アーチェリーをしたことなどです。うれしかったことは、アメリカにも友達ができたということです。友達がいたのといなかったのでは楽しさに差があったと思います。

言葉にはかなり混乱しました。しかし、ボディランゲージでなんとかかなり、でも英語で話せたらよかったと思いました。

素晴らしい経験をさせていただいてありがとうございました。



ハイ、チーズ!

日本語村「森の池」キャンプだより

アメリカを実感

キャンプカウンセラー 辻 正博



一番後ろが辻さん

今年の6月から2ヶ月、ミネソタ州の日本語村「森の池」キャンプに行きました。

私はアメリカの中高生に習字・囲碁・柔道・そろばん・和太鼓などの日本文化を通して、例えば「書く」「打つ」「礼」「足し算」などの日本の言葉を伝えました。もちろん日本語講座も開き、日本語の基礎をわかりやすい日本語で教えました。

1番印象に残ったことは、夜のキャビンで高校生に漢字の成り立ち講座を持った時、高校生がこの授業を喜び、興味を示し、熱心に質問してくれたことです。「漢字が面白い」と言ってくれたその時の彼等の笑顔が忘れられません。

アメリカ人、日本人の若い先生に共通していたのですが、感受性(文化)の違いもありました。授業、行事、掃除の後片付けをしないということです。職員室さえゴミだらけでした。何度か後片付けをしましたが、職員会議で「後片付けをしよう」と提案し、改善されました。茨木市から贈られた人形にも励まされ、キャンプ生活を有意義に過ごしました。

※なお、今年度は辻さんの他に、中山綾子さん、河村裕美さんも、カウンセラーとして日本語村に参加されました。

ミネソタ州コンコーディア大学日本語村研修生のホームステイ “レイチェルタイフーン”に感謝

櫻井 美恵子

3M（マイホーム・マイカー・マネー）もないのに初めてホストファミリーになった我が家へ、台風1号がやってきたのはこの夏の初めのことでした。17年間、シカゴで力をたくわえて大きくなったその名もレイチェルタイフーン。明るく、元気で、しかも、なんとも超グラマーな強烈な、まさに台風そのものでした。我が家には13日間、日本には約1ヶ月の滞在で、またひとまわり大きくなって帰っていきました。

言葉こそ違えけれど、上2人の高校生の息子達と夜な夜なパーティーをするのです。小3の娘とは♪鬼のパンツ♪や♪カエルのうた♪を輪唱。12泊は長いなあ当初考えていたのに、とんでもない、あーっという間デシタ。「アメリカンスタイ

ルが好きだ」と、かたくなに日本料理や風習を受け入れず、お昼のマクドナルドだけであの体、大丈夫なんだろうかと心配もしたけれど、何事もなく、とにかく元気でよかった。テロの後、TELをするととても喜んでくれました。ただ、娘にくれたアメリカ国旗のTシャツ、心情的に着せられないの今。自分の時間の犠牲はあるけれど、適度な緊張と、主婦に徹した13日間でした。



レイチェルと一緒に

祝・内海町合併50周年記念 山本市長らが出席

鯉雲が浮かぶ10月28日（日）、内海町合併50周年記念式典が、内海町立内海中学校体育館で行われました。

本市から、山本末男茨木市長、福井紀夫茨木市議会議長、若林三雄茨木市・内海町姉妹都市委員会委員長が式典に参列されました。

式典後、内海町出身の石倉三郎さん、伊藤君子さんのオンステージもあり、終始和やかな雰囲気の中で行われました。



盛大に行われた50周年記念式典

内海中サッカー部 と交流試合

去る7月14日（土）～15日（日）にかけて、内海中学校のサッカー部（大人4名、生徒19名）が来茨し、本市中学生と交流試合を行いました。

2日間とも快晴でじりじりと容赦なく照りつける太陽の下でサッカーボールを追いかける姿は、力強さと逞しさを感じると同時に、ファウルをしないフェアプレーに徹する彼らの態度に、サッカーに取り組む真摯な気持ちが表れていました。

試合終了後、握手をかわす選手たちの間から、「また、来いよ」という言葉も聞かれ、交流が着実に根付いていることを実感しました。



熱戦につぐ熱戦（西陵中にて）

10月17日～23日
茨木市民親善訪中団



天柱山の展望台で



安慶市のホテルで記念撮影



上海・豫園よえんで説明を受ける訪問団



黄梅劇学校で

出発前のニューヨーク・テロの影響で、申込者のキャンセルが続出し、今年の市民訪中団は結局市職員を添乗員代わりにして、合計7人で訪中した。出発当日は台風接近でどしゃ降りになったり、APEC会議で浦東新区の見学ができなかったり、上海-安慶の飛行機が2時間半遅れたり、前途多難が予想された。

しかしながら、上は82歳から下は20歳という3世代訪問団は東団長を始めとして、強者揃いであり、逆にこれらの障害で訪問団の結束は強固になったようだ。安慶市では秋晴れの下、菱湖公園(敷地内の動物園では虎の子供が生まれていた)や迎江寺など由緒ある名所を訪ね、友好天象館、体育館、友好交流センター(昨年竣工)など現代

的建造物を見学し、人民路小学校では児童の熱烈歓迎を受け、伝統芸術である黄梅劇は2度も鑑賞する機会を得た。

郊外に出ては、古来「南岳」と称せられた天柱山に登り、数多の中国人観光客に混じり、往復4回リフトに乗り、皖河の景觀を堪能した。

その後、安慶市関係者の好意に謝しつつ、南京(日本人観光客が激減で土産物屋の主人が困り果てていた)一蘇州(虎丘公園は丁度虎丘祭りの最中だった)一上海と全国版の名所旧跡を訪ね、中国の長い歴史に思いを馳せ、また、成長著しい中国経済の光と影に日本の高度経済成長期の姿を重ね合わせたりした。(随行員 椎原 純)

内海町宿泊施設利用者に補助

姉妹都市内海町との交流促進を図るため、内海町の宿泊施設を利用する市民の皆さんに対し、宿泊費用の一部を市が補助する制度があるのをご存じですか? 補助額(1泊)は、中学生以上3,000円、小学生1,500円で、1人につき年間2泊分まで補助されます。詳しくは、市民生活部市民活動推進課へお問い合わせください。(TEL. 20-1604)

会員募集

本協会では、姉妹・友好都市交流をはじめ、国際交流に興味を持っておられる方々の入会をお待ちしています。

会員には、年2回発行する協会報や、協会が催す交流行事のご案内をいたします。

〈年会費〉 個人会員(一般)2,000円(学生)1,000円
団体・法人会員 1口5,000円

〈申込先〉 協会事務局(市役所南館8階 市民生活部
市民活動推進課内)

(TEL. 20-1604)

心温まるふれあい交流

通訳ボランティア(IIN) 楠 薫

「JICA大阪国際センター研修員とのふれあい交流」の9月15日(土)、私は通訳として研修員と市民との交流に参加しました。午前は環境衛生センター、午後は西河原市民プールを見学、いずれも素晴らしい近代的な設備に参加者一同感動し、質問が続出しました。

夕方、大阪国際センターに戻ってのパーティーでは、各グループ毎にスタンツを発表、私達のグループはマレーシアの民族舞踊を披露し、日本の盆踊りに似た簡単な踊りに他のグループも賑やかに合流、そのほか研修員出身国の民謡や日本の「幸せなら手を叩こう」を全員で合唱し、会場は大いに盛り上がりました。

その後も研修員と市民参加者との談笑と交流はいつまでも続き、別れを惜しむシーンが見られ、本当の“ふれあい交流”を経験出来たことを大変喜んでおります。



民族舞踊を踊る楠さん(右端)

寄 附

本市の国際交流事業の推進のためにと次の方から温かいご寄附をいただきました。ご厚志に心からお礼申し上げます。(5月～11月、敬称略)

〈市 へ〉 6月 国際ゴルフ株式会社(100万円)

〈協会へ〉 11月 茨木ライオンズクラブ(20万円)

Ibaraki Intercultural Network (IIN)

姉妹都市活動室

姉妹都市活動室は、月2回の例会で英語力の維持、向上を目指し、各国からの講師を招いて英語による講演や討議等を行っています。

また、市内在住の世界各国の人々との交流も活発にしており、週2回、市役所の国際交流サロンで行っている「実用日本語学習会」では、学習者のレベルに合わせて日本語学習を支援しています。



大阪大学の留学生の皆さんと

We Are Friends!

青少年活動室

英語でショッピング、ハロウィンやイースターなどの外国文化の紹介など、ゲームを中心に毎月違ったテーマで生の英語に触れられる「青少年活動室」。小学4年生から中学生までなら無料で参加できますので、講師の久徳ウェンディさんと英語に親しみましょう。基本的に第3日曜日午後2時からクリエイティブセンターで行っています。



ハロウィンパーティー

編集・発行

茨木市国際親善都市協会

事務局:茨木市市民生活部市民活動推進課内

〒567-8505

茨木市駅前三丁目8番13号

TEL.0726-20-1604 FAX.0726-22-7202